

米軍ヘリAH-1からの燃料キャップ落下事故に関する意見書

去る4月2日、北部訓練場から普天間飛行場に帰還したAH-1攻撃ヘリの燃料タンクのキャップが外れていたことが判明した。沖縄防衛局からの連絡によると、落下した燃料タンクのキャップは長さが約15センチ、厚さ約2.5センチ、重さ約321グラムであり、材質も公表されておらず、落下場所も不明である。また、当該部品は飛行中に落下したと思われるが、沖縄防衛局から本市に連絡があったのは4日になってからであり、本市への連絡まで2日もかかっていることは、米軍の通報体制の不備はもとより、事の重大さを認識していないことは明白である。

幸いにも、現時点で今回の落下事故に係る人的・物的被害等は確認されていないが、航空機からの落下物事故は一つ間違えば人命に関わる重大な事故につながることから、決してあってはならないことであり、断じて容認できるものではない。

今年2月にはMV-22オスプレイから飲料水ボトルの落下事故が起こったばかりであり、本市議会は、これまでこのような事故が発生するたびに再発防止策を徹底するよう米軍及び関係機関に再三再四強く申し入れてきたにもかかわらず、米軍航空機の整備点検、安全管理体制がずさんであることもさることながら、事故後の再発防止策が全く講じられていないことに対し激しい憤りを覚えるものである。

よって、本市議会は、市民・県民の生命及び財産並びに安全・安心な生活を守る立場から、今回の米軍ヘリAH-1からの落下事故に対し嚴重に抗議するとともに、下記の事項が速やかに実現されるよう強く要請する。

記

1. 事故の原因を徹底究明し、早急に結果を公表すること。
2. 具体的な再発防止策を講じ、実施状況を明らかにすること。
3. 住宅地域上空での飛行訓練を即時中止すること。
4. 普天間飛行場の即時閉鎖、早期返還を実現すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年4月22日

沖縄県宜野湾市議会

あて先：内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣、沖縄及び北方対策担当大臣、
外務省沖縄担当大使、沖縄防衛局長